



ENEOS

証券コード

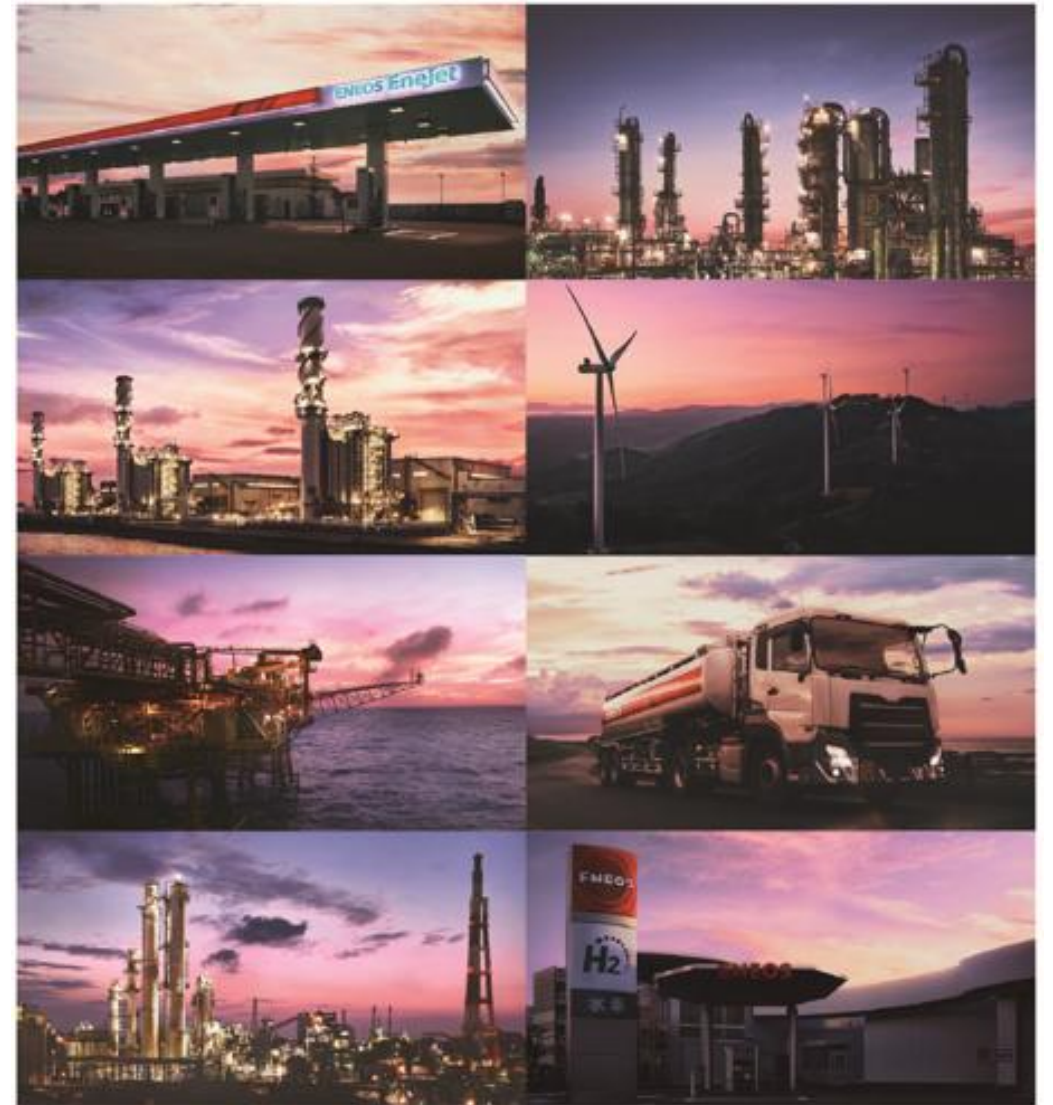
5020

個人投資家向け説明会

2025年12月22日

ENEOSホールディングス株式会社

1. ENEOSグループの概要
2. 事業戦略
3. 業績・株主還元
4. 最後に



1. ENEOSグループの概要

2. 事業戦略

3. 業績・株主還元

4. 最後に

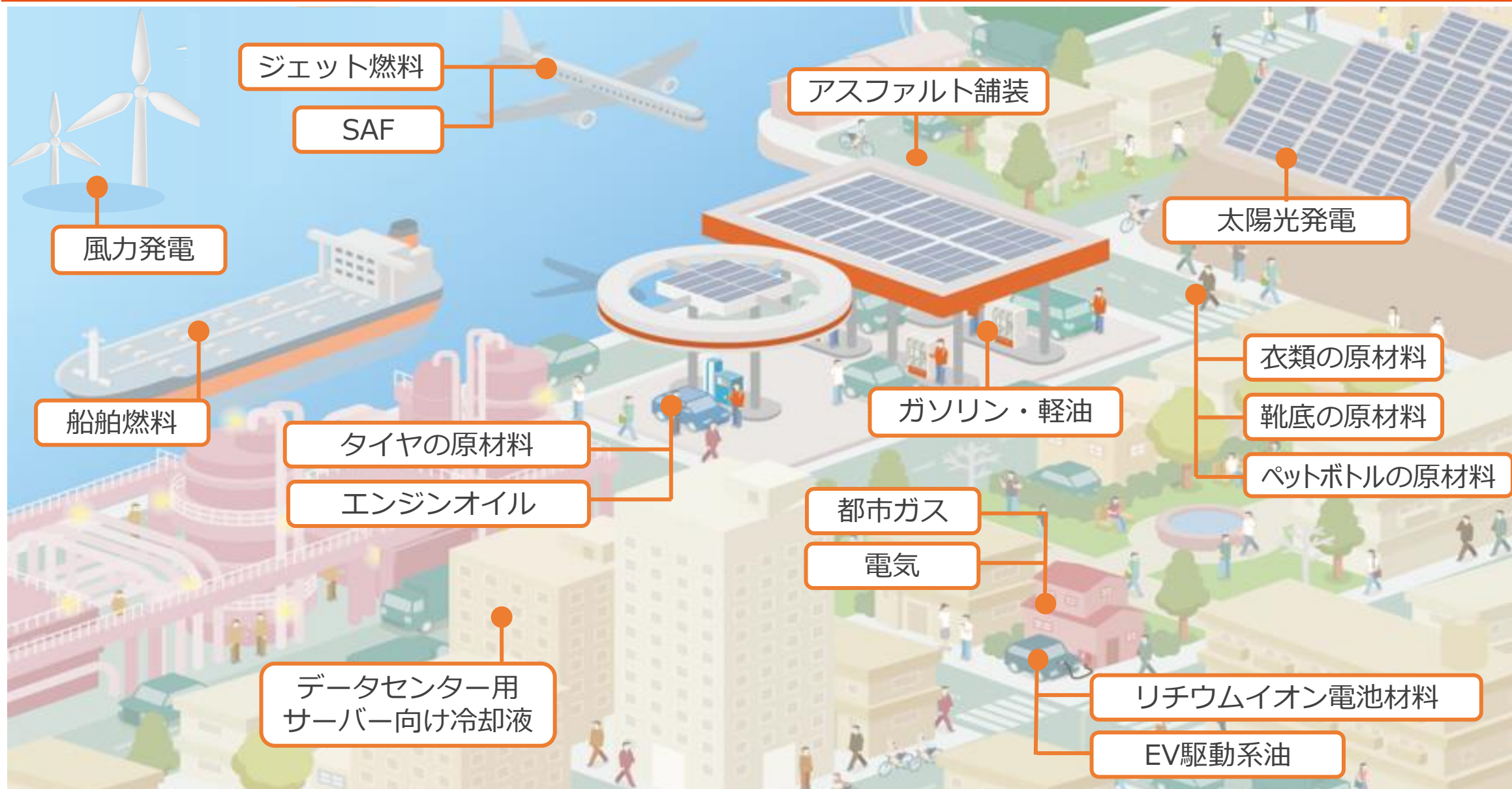


ガソリンスタンド = 石油の会社？




エネルギー・素材にかかわる
幅広い事業を手掛けています

多くのENEOS製品が「今日のあたり前」を支えています



ひと目でわかるENEOSグループ

5




売上高 ※1
11兆4,000億円

在庫影響除き営業利益 ※1
4,200億円



連結従業員人数 ※2
14,235人

主要な事業会社等の女性管理職数 ※2
158人



国内燃料油販売シェア ※3
約**50**%

電気事業 発電容量 ※4
220万KW

再生可能エネルギー事業 電源容量 ※4
138万KW (発電中 + 建設中)



2023-24年度累計 総還元性向
77%

2025年度年間配当計画
34円/株

※1 2025年度計画

※2 2025年3月末時点

※3 2024年度実績

※4 2025年9月末時点

ENEOSグループを構成する5つの主要事業 ※

持株会社

ENEOSホールディングス

連結在庫影響除き営業利益

4,200億円

その他 (JX金属、NIPPOほか)

営業利益

810億円

石油製品

ENEOS

在庫影響除き営業利益

2,400億円

石油・天然ガス開発

ENEOS Xplora

営業利益

500億円

機能材

ENEOSマテリアル

営業利益

160億円

電気

ENEOS Power

営業利益

320億円

再生可能エネルギー

ENEOS
リニューアブル・エナジー

営業利益

10億円

<次世代エネルギーへの移行に向けた事業領域>

基盤・素材

低炭素

脱炭素

脱炭素

※ 営業利益/在庫除き営業利益は2025年度計画



国内No1.「ENEOS」ブランド 次世代エネルギーの供給基盤確立へ

主な事業領域

- ・ 石油製品（ガソリン・灯油・潤滑油等）の精製および販売
- ・ 石油化学製品の製造および販売
- ・ SAF、バイオ燃料、合成燃料、水素の研究・実証・実用化

実績と強み

- ・ 国内燃料油シェア約50%、約1万2,000か所のサービスステーション
- ・ 需要家に隣接した国内11拠点の製油所・製造所
- ・ 東南アジアを中心に16か国、23拠点の海外ネットワーク
- ・ 合成燃料、水素（Direct MCH[®]）に関連する独自の技術力



世界8か国で油ガス田を開発 高度な地下技術で環境との調和を図る

主な事業領域

- ・ 石油の開発/生産/販売
- ・ 天然ガスの開発/生産/輸入/販売
- ・ CCS/CCUS※事業

※CO₂を回収して地下に貯留する技術/貯留するCO₂を有効利用する技術

実績と強み

- ・ 石油・天然ガス権益生産量**10万**バレル/日
- ・ 東南アジア・オセアニアにおける長年の実績・知見、産油国との良好な関係性
- ・ 超深海まで通用する**高度な海洋掘削技術**
- ・ 米国で蓄積したCCS/CCUS技術のノウハウ（CO₂回収量**500万t**達成）



合成ゴムのパイオニア 低燃費タイヤ性能の向上に貢献

主な事業領域

- ・ 高性能ゴムSSBR（低燃費タイヤの原材料他）の製造・販売
- ・ リチウムイオン電池用素材（EV用途他）の製造・販売
- ・ 合成ゴム・エマルジョン、高性能モノマー等の製造・販売

実績と強み

- ・ 相反する性能要件（高耐摩耗性、低燃費性、グリップ性能など）を両立する
最先端の技術開発力と顧客サポート体制
- ・ 顧客と密に連携した共同開発、信頼関係の構築
- ・ 日本、タイ、ハンガリーの3極生産体制とグローバルな営業拠点網



発電から小売まで一貫した供給体制 「ENEOSでんき」を展開

主な事業領域

- ・ 電気の発電および販売（法人向け/小売り向け）
 - ・ 都市ガスの販売（法人向け/小売り向け）
 - ・ 蓄電池を活用したVPP※事業
- ※ 小規模エネルギー設備をデジタル技術でまとめて管理・制御し、一つの大規模発電所のように機能させる仕組み

実績と強み

- ・ 220万KWの発電容量
- ・ 最新鋭・高効率のLNG発電所による高い資本効率
- ・ 広範な顧客接点（サービスステーション、量販店など）
- ・ AIを活用したVPPシステムによる蓄電池の最適運用ノウハウ



再生可能エネルギーのスペシャリスト 脱炭素社会の実現をリード

主な事業領域

- ・ 太陽光/風力/バイオマスなど再生可能エネルギーの発電・販売
- ・ 蓄電池を活用した発電所の効率運営

実績と強み

- ・ 国内**第2位**級の発電能力
- ・ 年間CO₂削減効果**68万**t-CO₂
- ・ **専門性と経験**に支えられた**ハイレベルな電源開発能力**
- ・ 開発、運営、売電に至るまでの**一貫体制**

ENEOSは「明日のあたり前」の実現に向けて挑戦を続けます

「今日のあたり前」を支え、
「明日のあたり前」をリードする。

1. ENEOSグループの概要

2. 事業戦略

3. 業績・株主還元

4. 最後に



長期グローバルトレンド

脱炭素社会実現に向け、次世代エネルギーへの移行が進展



事業環境の変化

国内需給環境

国内石油製品需要の減退が
スローダウン

経済動向

米国政策リスク
インフレ等による予見性低下

脱炭素の潮流

エネルギー安全保障意識の高まり
脱炭素社会実現に向けた
コスト負担増加



足元のトレンド

長期グローバルトレンドに沿いつつも、

安定かつ経済的に供給可能なエネルギーの重要性が再認識

○ ありたい姿

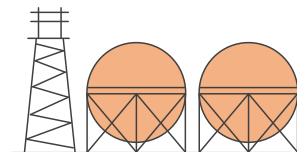
エネルギー・素材の安定供給を通じ
「今日のあたり前」を支え

低炭素・脱炭素への取り組みで
「明日のあたり前」をリードする

○ 事業戦略

既存エネルギーの安定供給に
対する社会的要請に対応するとともに

将来の次世代エネルギーへの移行を
見据えた戦略を実行



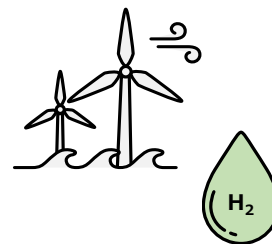
基盤・素材

既存事業の効率化と
早期収益化が期待できる事業の
強化により「稼ぐ力」を底上げ



低炭素

脱炭素への移行期を支えるエネルギー
LNG、バイオ燃料関連の事業を拡大



脱炭素

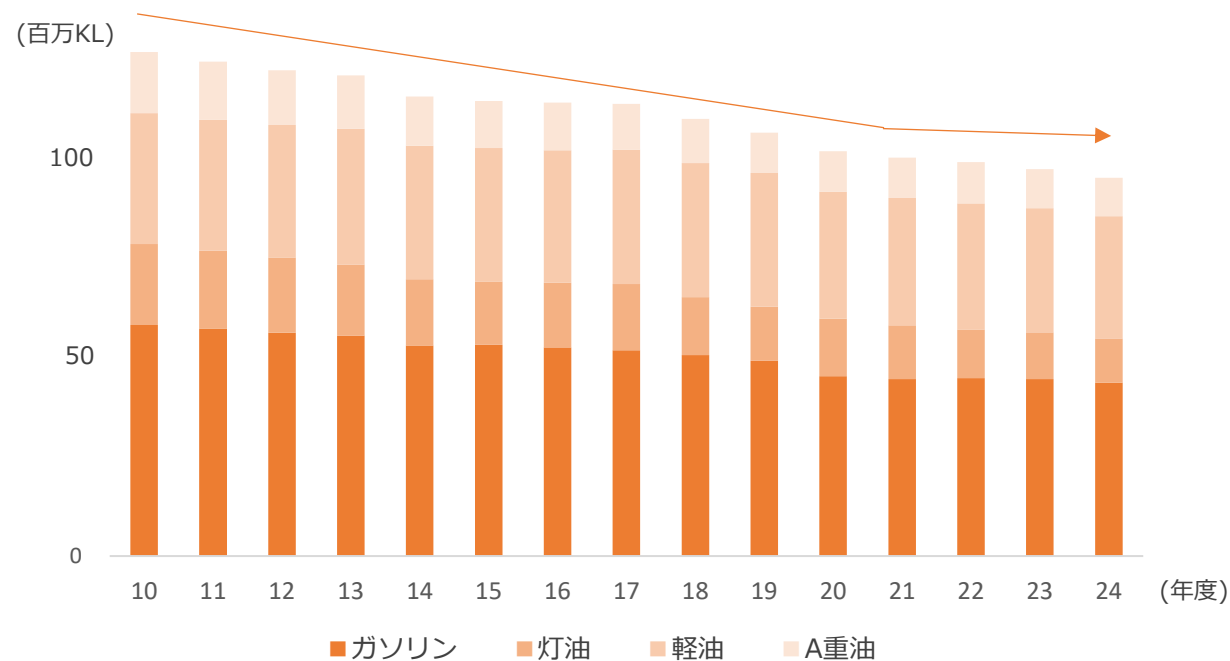
社会情勢・トレンドの変化に
機敏かつ柔軟に対応するため
多様な可能性に種をまき、チャンスを選

既存事業の効率化

石油製品事業

国内燃料油の安定収益確保、ジェット燃料の拡販による利益拡大

＜白油4品（ガソリン、灯油、軽油、A重油）国内需要推移＞ ※



国内燃料油

内需減少ペースは

スローダウン

（年率▲1～2%程度）

安定供給責任を
果たしながら
一定の収益を確保

ジェット燃料

当社販売計画

25～27年度の3か年で

年率＋3～4%拡販

国際貨物の増加、
インバウンド需要を
取り込み

早期収益化事業の強化 - エネルギー -

石油製品事業 海外燃料油事業等の強化・拡大

- ・ これまで培った現地ネットワーク
海外アセット獲得等を通じて事業拡大
- ・ アジア域の需要増を確実に取り込む



現行の東南アジア各国政策ベースにおいて
2050年に向けて石油製品需要は増加する見通し

電気事業 五井火力発電運開による競争力強化

- ・ 最新鋭・高効率の火力発電所である
五井火力発電所が全基稼働を開始

✓ 発電規模は78万kW × 3基 (234万kW)

✓ 高効率な1,650℃級ガスタービン・コンバインドサイクル発電



▲五井火力発電所※



▲タービン発電機

早期収益化事業の強化 - 素材 -

石油製品事業

データセンター用液浸冷却油の拡販

- 最新GPUが性能を発揮するには高い冷却効率を実現する液浸冷却が必須
- 次世代エッジデータセンター「高浜ドリップ1」の液浸冷却システムに当社冷却油（ENEOS IX Type J）が採用



サーバーの省電力化・パフォーマンス向上・静音効果に貢献

機能材事業

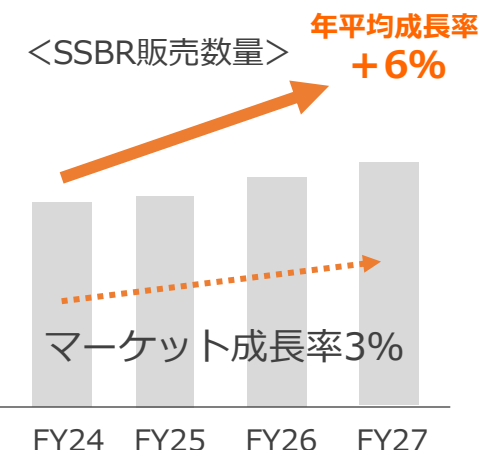
生産性向上・成長分野への重点投資

- 四日市工場においてSSBRの生産能力を増強
- マーケットを上回る成長・シェア拡大を目指す

SSBRとは…

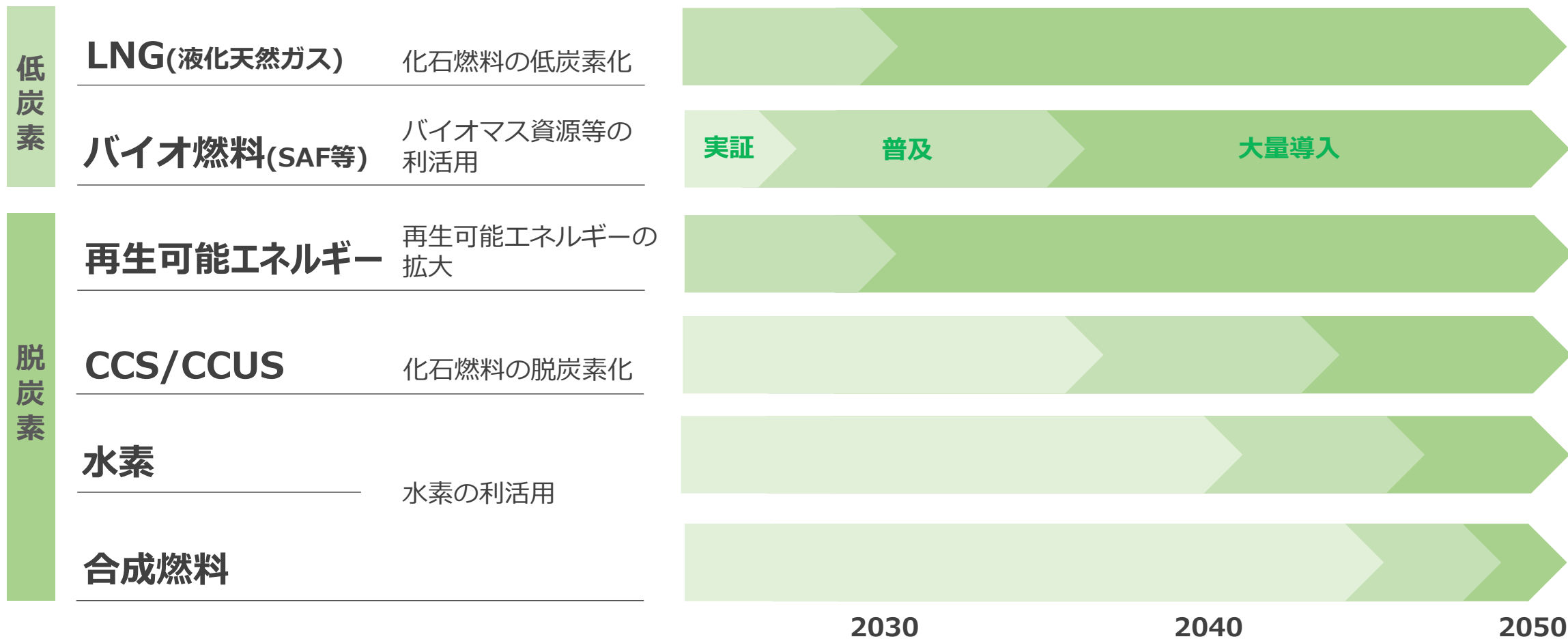
低燃費タイヤの原材料

→低燃費・高グリップ・高耐久性を備え、
環境負荷低減に貢献



次世代エネルギー普及に向けたシナリオ

10年後、20年後も社会から求められるエネルギーの「あたり前」を支え続けていくため、低炭素事業への注力を図るとともに、脱炭素に向けた多様なオプションを準備



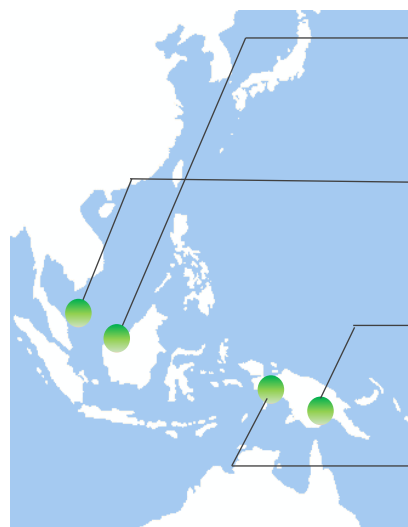
脱炭素への移行期を支えるエネルギー

石油・天然ガス開発事業

ガス・LNG開発の積極的な推進

- ・ 低炭素ソリューションとしてLNGの重要性が増大
- ・ 既存プロジェクトに加え
・ 権益追加取得・資産買収を検討

▼主なプロジェクト



マレーシアSK10鉱区
(期限延長完了)

マレーシアBIGSTプロジェクト
(CCS実装を通じた開発案件)

パプアニューギニア Papua LNGプロジェクト
(25年度中最終投資決定)

インドネシア タンクーLNGプロジェクト拡張開発
(28年以降順次生産開始)

石油製品事業

SAF (バイオ燃料) サプライチェーン構築

- ・ 輸入販売を通じた国内供給体制整備とともに
2028年度以降、40万KL/年のSAF製造を目指す
- ・ 国内外の有力企業と協業

SAFとは...

廃食油など再生可能なバイオマスを原料とする
次世代の航空燃料

→ CO₂排出量の大幅削減を期待できる

▼米国バイオ燃料事業への出資



Par Pacific社の
Kapolei製油所にて
年間約15万KLの
SAF製造を計画

脱炭素の多様な可能性

再生可能エネルギー事業

太陽光/風力/バイオマス発電

- ・ 開発中案件を着実に推進
- ・ 蓄電池の活用拡大を本格化

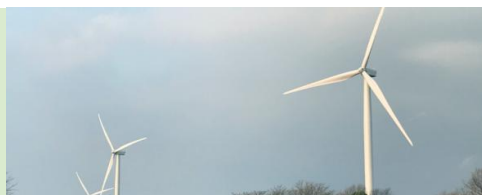
太陽光発電

発電容量 96万kW



風力発電

発電容量 19万kW



バイオマス発電

発電容量 9万kW

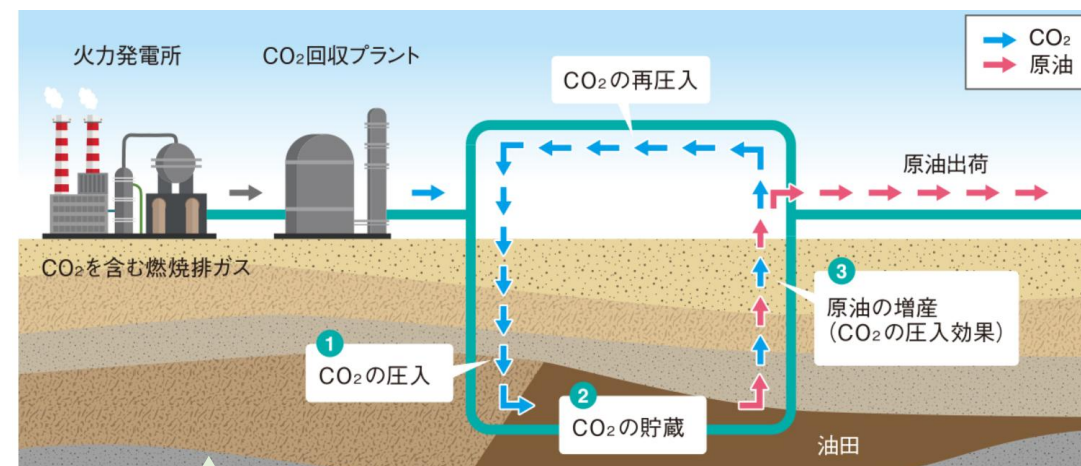


※2025年9月末時点、持分容量ベース

石油・天然ガス開発事業

CCS/CCUS

- ・ 米国でCO₂回収量500万tを達成
- ・ CCSの社会実装に向けた取り組みを推進



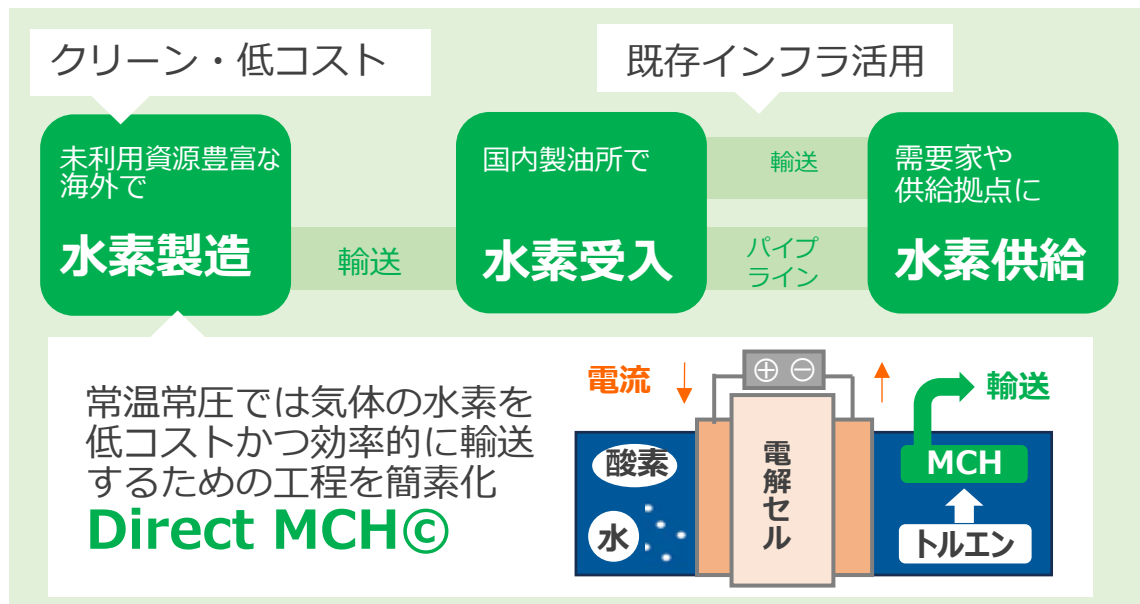
- ✓ 米国で蓄積した知見と操業ノウハウを東南アジア等ほか地域のプロジェクトに展開
- ✓ ENEOSドリリングによる高度な掘削技術を活用

脱炭素の多様な可能性

石油製品事業 水素

- 水素を活用した多様な新規ビジネスを検討

大規模サプライチェーンの構築
産業運輸等事業者向け水素供給事業 ほか



石油製品事業 合成燃料 (CO₂や水素を原料とした燃料)

- 国内初の合成燃料シャトルバス走行を実現
- 早期製造技術確立と社会実装を目指す

▼2025大阪・関西万博における合成燃料走行実証



合成燃料は石油製品に非常に近い成分なので
既存インフラ（製造設備、タンカー、ローリー、給油機等）を
そのまま活用可能

目指す方向性

柔軟にポートフォリオを変化させながら
持続的な企業価値向上を目指す

<主な取り組みセグメント>

- 石油製品ほか
- 石油・天然ガス開発
- 機能材
- 電気
- 再生可能エネルギー

脱炭素事業

■ 再生可能エネルギー

■ CCS

低炭素事業

■ LNG開発

■ バイオ燃料（SAFほか）

■ 水素

■ 合成燃料

基盤・素材事業

■ 石油製品（燃料油/海外/潤滑油（液浸冷却油ほか））

■ 機能材

■ 電気

2024年度
営業利益
4,293億円

2027年度
営業利益
5,000億円

2030年度
営業利益
6,000億円

2040年度
営業利益
9,000億円

ROE 8%

ROE 10%

ROE 12%

ROE 15%

(参考) 第4次中期経営計画 財務目標

		2024年度 実績	増減等	2027年度 目標
資本効率	ROE ^{※1}	8%	+2pt以上	10%以上
	ROIC	5%	+1pt以上	6%以上
在庫影響 除き利益	当期利益	2,664億円	+536億円	3,200億円
	営業利益	4,293億円 ^{※2}	+707億円	5,000億円
財務健全性	ネット D/Eレシオ ^{※3}	0.48倍	適正な レバレッジ水準へ	0.7~0.9倍

〔2027年度前提〕
ドバイ 75\$/B
為替 150円/\$

※1 在庫影響除き親会社の所有者に帰属する損益を分子として算定 ※2 非継続事業を含む実質営業利益（在庫影響除き）
※3 他社開示事例等を踏まえ、今次中計よりリース債務含み・非支配持分除き（ハイブリッド社債資本性調整後）

1. ENEOSグループの概要

2. 経営戦略

3. 業績・株主還元

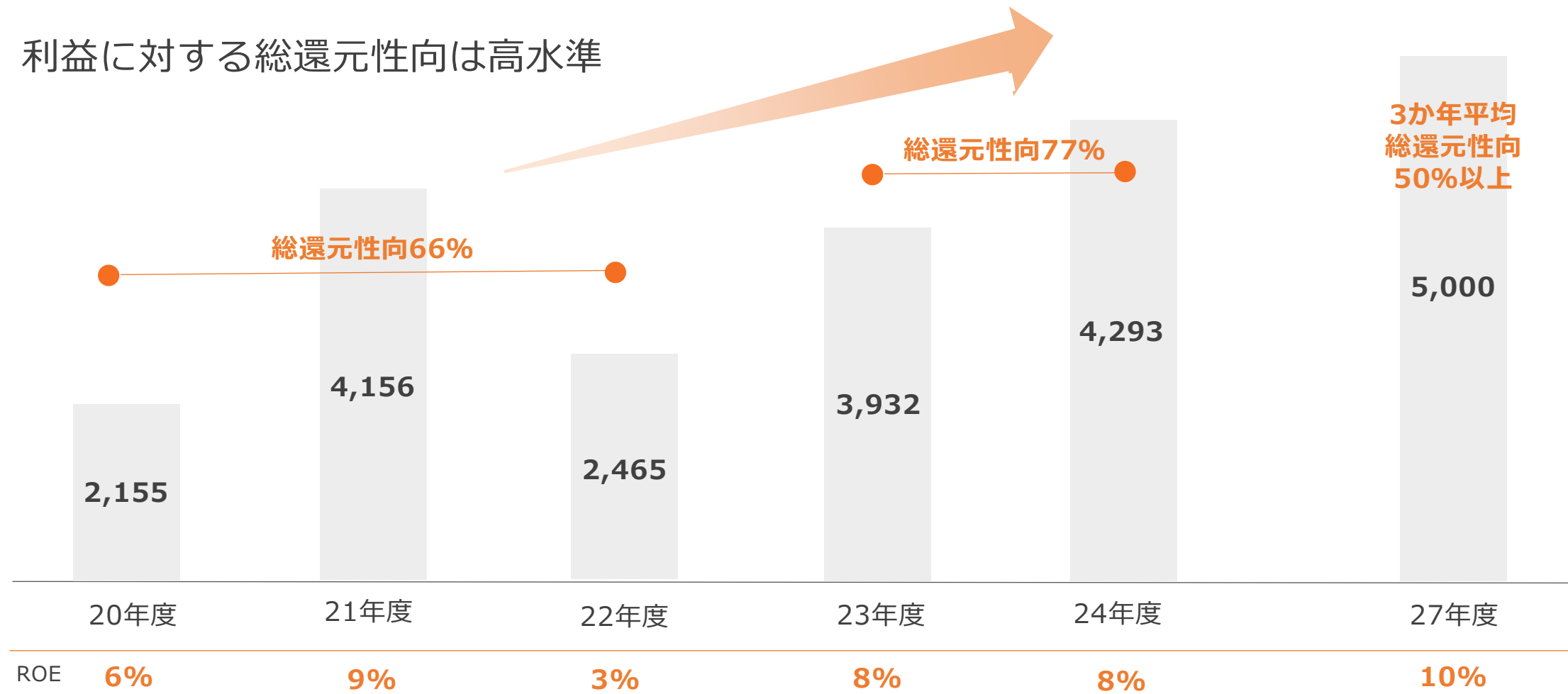
4. 最後に



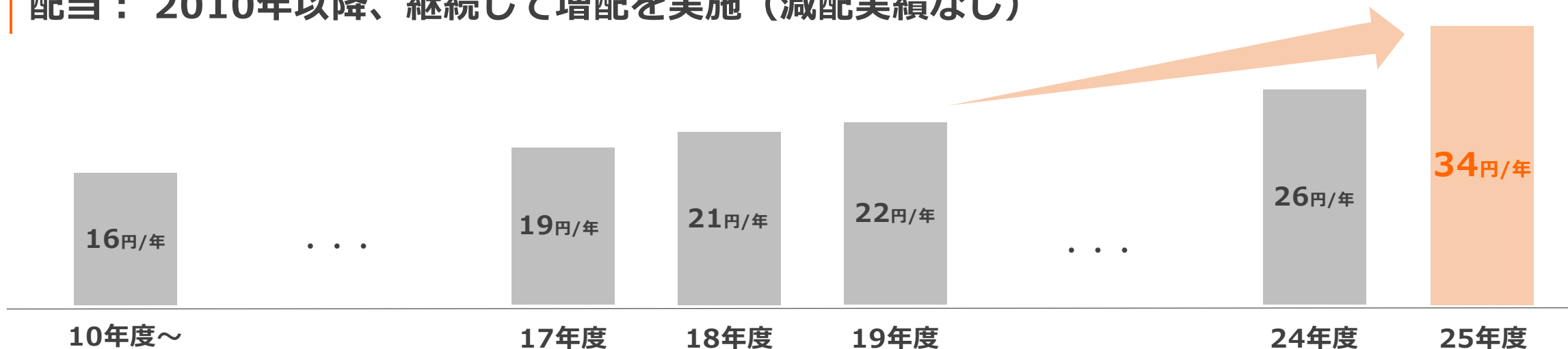
在庫影響（＝実質的な収益力には影響しない原油価格変動の影響）を除いた営業利益は増益基調かつROEは着実に改善

在庫営業除き営業利益（億円）

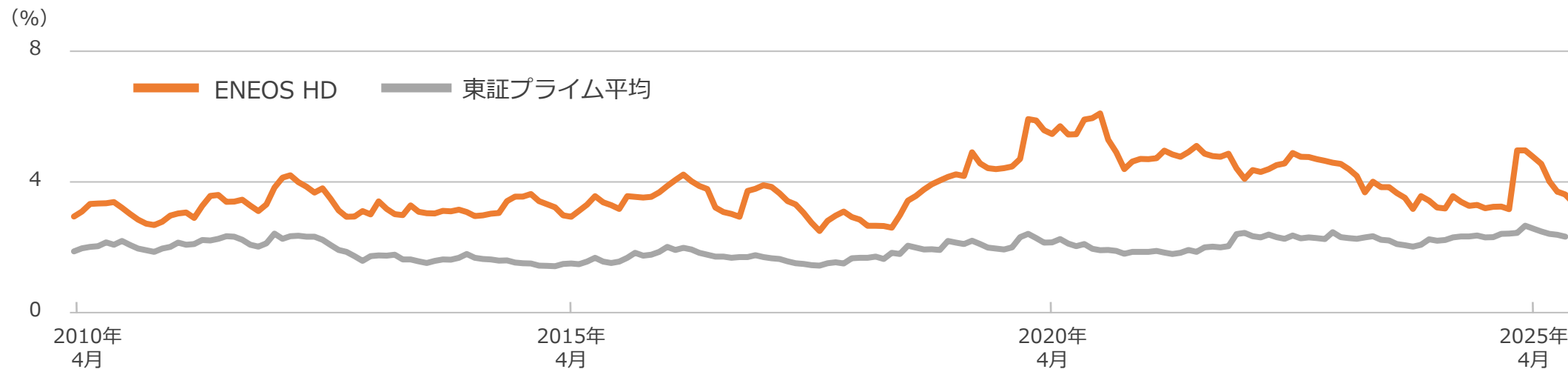
利益に対する総還元性向は高水準



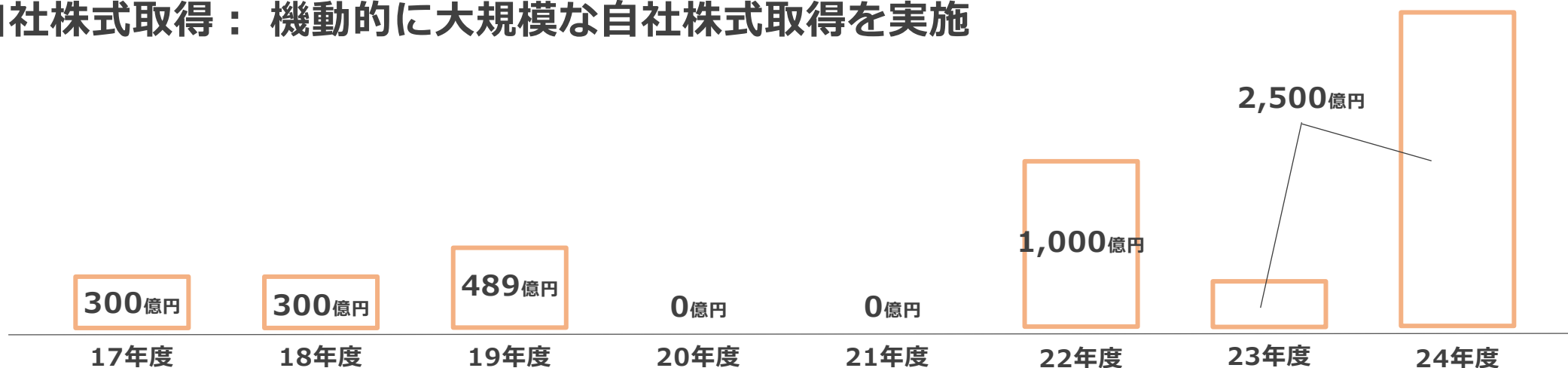
配当：2010年以降、継続して増配を実施（減配実績なし）



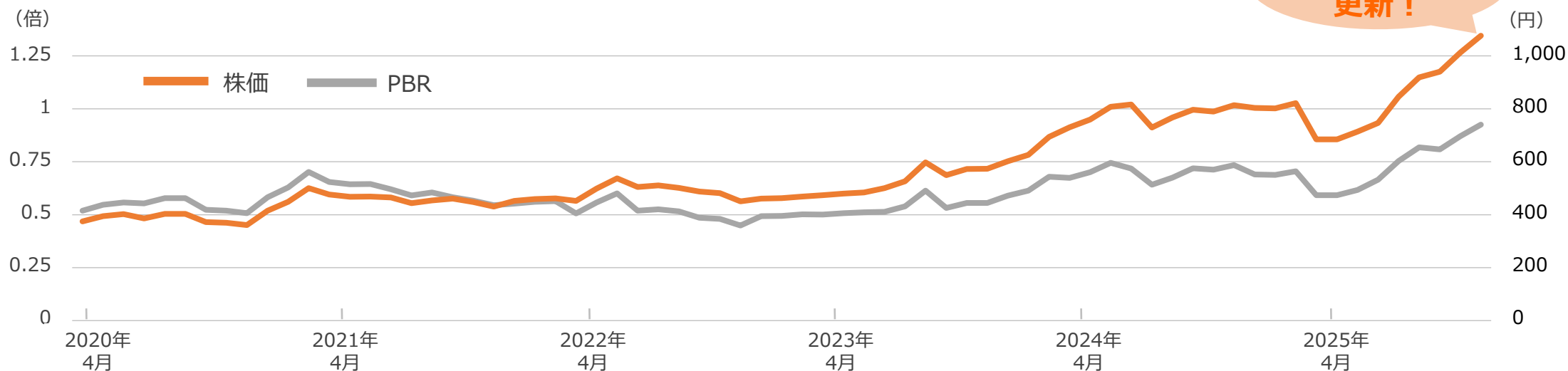
配当利回り：東証プライム平均に対し、優位に推移



自社株式取得：機動的に大規模な自社株式取得を実施



株価・PBR：（過去最高値）12月15日終値 1,116円



さらなる株主還元の強化

基本方針の下、第4次中期経営計画では、株主還元をさらに強化

(基本方針：株主への利益還元は経営上の重要課題であり、安定的な配当の継続に努める)

～第4次中計還元方針～

- 30円/株の配当を起点とする業績に応じた累進配当を導入
- 3力年平均で総還元性向50%以上

➡ **安定配当の継続 かつ 高利回りのため 長期保有に最適**

▶▶ 「日経平均株主還元株40指数*」に採用

*日経平均株価の構成銘柄のうち、株主還元に積極的な銘柄

社外の評価

ESGインデックス

 <p>FTSE4Good</p> <p>FTSE4Good Index Series</p>	 <p>FTSE Blossom Japan Index</p> <p>FTSE Blossom Japan Index</p>	 <p>FTSE Blossom Japan Sector Relative Index</p> <p>FTSE Blossom Japan Sector Relative Index</p>
<p>2024 CONSTITUENT MSCI日本株 ESGセレクト・リーダーズ指数</p>	<p>2024 CONSTITUENT MSCI日本株 女性活躍指数 (WIN)</p>	 <p>Morningstar Japan ex-REIT Gender Diversity Tilt Index</p>
 <p>S&P/JPXカーボン・エフィシエント指数</p>	 <p>SOMPOサステナビリティ・インデックス</p>	

格付け

格付機関	格付	見通し
格付投資情報センター (R&I)	AA-	安定的
日本格付研究所 (JCR)	AA-	安定的
ムーディーズジャパン	Baa2	安定的

1. ENEOSグループの概要

2. 経営戦略

3. 業績・株主還元

4. 最後に



本日のポイント

ENEOSホールディングス（証券コード：5020）は…

ポイント1

幅広い事業領域で
「あたり前」という価値を
提供

ポイント2

脱炭素・低炭素社会への
移行をリード

ポイント3

長期保有に適した銘柄

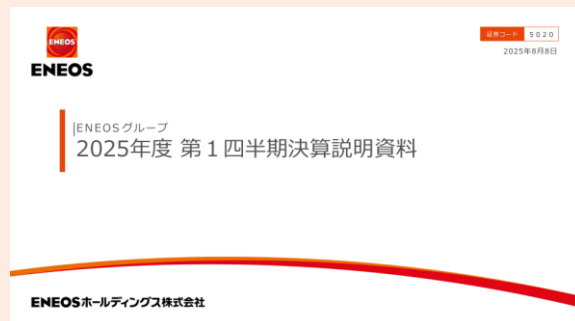
- ・ 安定配当の継続実績
- ・ 高利回り（2024年度総還元性向77%）

当社IRツールご案内

当社ウェブサイトには様々な情報を掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

■ IR情報

- 決算説明資料
- 決算短信
- 有価証券報告書
- 統合レポート



<https://www.hd.eneos.co.jp/ir/>

■ 長期ビジョン

- 中期経営計画
- 企業価値向上に向けた取り組み
- カーボンニュートラル基本計画

<https://www.hd.eneos.co.jp/about/vision.html>

■ サステナビリティ

- ESGデータブック
- ESG説明会資料

<https://www.hd.eneos.co.jp/sustainability/>



使命

地球の力を、社会の力に、そして人々の暮らしの力に。
エネルギー・資源・素材における創造と革新を通じて、社会の発展と活力ある未来づくりに貢献します。

大切にしたい価値観

社会の一員として

高い倫理観

誠実・公正であり続けることを価値観の中核とし、高い倫理観を持って企業活動を行います。

安全・環境・健康

安全・環境・健康に対する取り組みは、^{いのち}生命あるものにとって最も大切であり、常に最優先で考えます。

人々の暮らしを支える存在として

お客様本位

お客様や社会からの期待・変化する時代の要請に真摯に向き合い、商品・サービスの安定的な供給に努めるとともに、私たちだからできる新たな価値を創出します。

活力ある未来の実現に向けて

挑戦

変化を恐れず、新たな価値を生み出すことに挑戦し続け、^{こんにち}今日の、そして未来の課題解決に取り組みます。

向上心

現状に満足せず、一人ひとりの研鑽・自己実現を通じて、会社と個人がともに成長し続けます。

将来見通しに関する注意事項

本資料には、将来見通しに関する記述が含まれていますが、実際の結果は、様々な要因により、これらの記述と大きく異なる可能性があります。かかる要因としては、

- (1) マクロ経済の状況またはエネルギー・資源・素材業界における競争環境の変化
- (2) 法律の改正や規制の強化、
- (3) 訴訟等のリスク など

が含まれますが、これらに限定されるものではありません。

質疑応答

